

項目			内容				評価		
#	項目	数値目標	研修すべき内容	行動目標との関係	時期	協力者	1. 研修医→指導医	2. 指導医→指導責任者	時期
							研修医は研修手帳に下記書類を添えて指導医へ提出(9月、3月)	指導医は評価終了後に研修手帳と各書類を、指導責任者へ提出	
1	ブローベ診断(消化管)	消化管生検 800件/年以上	・病理業務の資料の管理と保存 ・人体材料の取り扱い	I-(1)-3 I-(1)-4	通年		・症例一覧表(書式は任意) -症例数の合計と内訳(生検、切除、消化管、一般臓器) -免疫染色を行った症例数 -遺伝子検索を行った症例数 -コンサルトを行った症例数		
	切除例診断(消化器)	消化器切除例 100件/年以上	・病理組織標本作製の基本	I-(2)-1					
	ブローベ診断(一般臓器)	その他一般臓器 100件/年以上 4年間で合計5000例以上	・臨床的事項と病理診断との関連性	I-(2)-5					
	切除例診断(一般臓器)		・生検、手術材料の診断と報告書作成	II-3					
	マクロ写真撮影	外科切除標本肉眼検討会症例のマクロ写真の撮影方法を実習 1回	・適切な肉眼写真の撮影	II-3	5月				
	免疫組織化学法	免疫組織化学法実習 1週×1回	・免疫組織化学法の基本	I-(2)-2	10月				
	コンサルト	コンサルト 4年間で2回以上	・コンサルテーションの仕方	I-(2)-6	通年				
		・コメディカルとの協調	III-4						
2	病理学会および講習会	・学会 4年間で計4回以上 ・講習会 1回/年以上	・病理業務に関連する法および制度	I-(1)-1	随時		・学会受領書または受講証明書のコピー	指導医は各書類の確認と試問を行い、研修手帳の該当行動目標の「指導医評価」欄に評価(a-c)を記入。 年度で評価の変更がある場合、新たな評価を記入。 研修手帳と各書類を指導責任者に提出。	
	病理学会東北支部地方会		・学会、研修会、セミナーへの参加	III-6					
	および講習会		・病理業務の社会的貢献	III-7					
3	学内医療安全管理部主催の講演会	1回/年以上	・病理業務に関するリスクマネジメント	I-(1)-2	随時		・受講証明書	↓	各年 2回  3月 9月
			・病理業務におけるバイオハザード	II-7					
			・病理診断の精度管理	III-5					
4	剖検資料の管理と保存	剖検の手続き、書類管理について説明を受ける	・病理業務の資料の管理と保存	I-(1)-3	4月		・剖検報告書コピー -補助例、執刀例	指導責任者は該当行動目標の「指導責任者評価」欄に、評価(a-c)を記入し押印。 評価終了後、研修手帳と各書類を研修医に返却。 なお最終年次に各項目の最下段に最終評価(a, b)を記入し押印。	
	剖検補助・執刀	6例/年以上 (4年間で40例以上、 ただし剖検資格認定申請の20例を含む)	・病理解剖の執刀	II-1	通年				
	剖検例検討会		・病理解剖報告書の作成	II-2					
	剖検例HE標本作製	自ら執刀した症例のHE標本作製を実習 1例 2週間	・病理組織標本の作製	II-6	9月				
			・コメディカルとの協調	III-4	通年				
5	細胞診講習	100件/年以上(スクリーニング、陰性例を含む) (4年間で計1000例以上)	・細胞診材料の診断と報告書作成	II-4	通年		・細胞診件数(書式は任意)		
6	病理部迅速診断	5件/年以上 (4年間で計50件以上)	・迅速病理診断 -指導医とともに迅速診断に携わる	II-5	通年		・迅速診断の報告書コピー		
7	学内CPC	CPC補助 計2例以上	・CPC	II-8	随時		・報告書コピー		
			・患者や遺族に対する配慮	III-1					
			・臨床医との適切な対応	III-2					
			・病理初期研修医に対する病理指導	III-3					
8	学会発表、論文執筆	1回/年以上 (4年間で学会発表または 原著論文、3件以上)	・研究と発表	III-8	随時		・学会演題の抄録コピー または ・原著論文の印刷かコピー		